廿九日夕刊

磐城時報

福島縣石城郡平紺屋町十四町
編輯兼發行人　岡田弘成
印刷人　[illegible]
福島縣石城郡平町紺屋町十四
印刷所　加納活版所
福島縣石城郡平町[illegible]町十五
發行所　磐城時報社
一部金貳錢　一ヶ月金參拾錢
廣告料一行金[illegible]
日刊(日曜、祭日)休刊

今度の町村議改選には 毛色の變つた候補者
續々と名乘りをあげやう
早くも取締りの準備

石城郡内各町村の町村會議員の改選は本年四月末からそれ〴〵執行される事になつて居るが、郡内を通じて一番運動の猛烈さを豫想されるのは平町を始め湯本、小名濱、植田、四倉、江名等の有權者の多い町と新有權者が多く對資本家との階級鬪爭の熾烈な炭礦所在町村とである。平町の如きは現に一部野心家が町議戰を目的に種々策動をなしてゐる事實もあり、平署の特高課がそれ〴〵秘密裡に調査を進めてゐる由である。此の町村會議員選擧は普通選擧實施後第一回であり曩に縣議戰、代議士戰が行はれてゐるだけ運動方法等も從來と異り、同時に所謂民衆を背景にした毛色の變つた候補者が續出する事と豫想される、村落に於てはこの現象が著しくないにしても平町その他各町並に炭礦所在町村には殊の外毛色の變つた候補者が名乘りを擧げ逐鹿場裡を賑はすものと見られてゐる既成政黨を背景に名乘つて出る者の數は相半すると見て從來のそれと比較して殊に多くなるのは既成政黨によらず地方自治町村には政黨の必要なしと叫ぶ所謂中立を看板にする候補者で、結果に於て何れが勝利を占めるかこれ亦頗る興味ある問題として見られて居る、何れにしても政爭の激烈なる點では縣下屈指の石城郡内が各町村毎に猛烈な競爭が繰ける事とて平、四倉、植田各署では今から取締の準備を急ぎつゝある。

▲磐銀重役會延期

休業中の磐城銀行では二十八日重役會を開催罷獨開業整理案について協議を重ねる筈であつたが重役の都合上延期することゝなつた。

小名濱町議上京し 商港實現の運動
序に伊澤男爵を訪問し 七十七出張所設置陳情

小名濱町町會議員十八名は助役高木傑氏と共に三十日午前五時十五分平驛發列車で泉驛から乘車し上京、小名濱商港問題が今期議會に提案さるゝので之が通過を計るため内務省、大藏省に陳情した上政友、民政兩本部を訪れ諒解を求める事になつた。尙ほ序に貴族院議員伊澤平左衛門氏を訪問し七十七銀行出張所を小名濱町に設けて貰ひ度いとその斡旋方を懇願する筈である

平町地下採掘
許否決定のため 愈よ區劃調査

石城郡好間村古河炭礦、同内郷村磐城炭礦より平町の地下採掘を仙臺鑛山監督局に出願されたことについて平町は極力これに反對し過般も伏見町長が仙臺鑛山監督局に出頭して反對陳情を試みたが監督局では平町郊外と町内の區劃調査を行ひその結果によつて採掘の許否を決する事になりいよ〳〵來る三十一日より一週間池知技師一行が來平區劃調査を行ふことに決定した

平町行路病舍
舊隔離病舍の建物を移築して充當

平町の行路病舍は掘ッ立小屋同然でそれに腐朽してゐるので收容者は奈落の底にでも蹴落されるが如く思ひ當局を非常に恨みて一時は問題を惹き起したこともあつたが平町では前後の事情を考慮した結果昨年腸チブス流行の折隔離病舍として設けた建物を移轉させ理想的の行路病舍を建てることに決定し近く着工する事となつたが六月ころまでには竣工の筈。

一町四村 事務研究會

石城郡四倉、大野、大浦、草野神谷一町四ヶ村役場吏員よりなる事務研究會では二十六日午前十時神谷村に例會を開催終つて新年懇親會を催した。

▲四倉銀行總會

石城郡四倉町四倉銀行は昨年十一月以來大口預金の支拂制限を以て整理を進めて居るが、此の程株主總會を開き下半期營業報告の承認を求めたが同行の營業狀態は下半期に於て一萬四千二百五十九圓二十七錢の損失となつて居る、此の損失は後期分繰越金に繰入れることになつた。

自動車に乘つて 眼球をつぶす
窓を破つて竹棹差し入る

平町田町白土自動車部白土利助方運轉手白土東一(二二)は二十八日午後六時頃乘合自動車第六六八號を運轉し四倉町から平町に向ふ途中平町鎌田町地内に於て同町政次郎妻田中ミン(三五)が竹桿をかついで通行中の左側を通り拔けやうとした際竹桿が自動車の窓のセルロイドを破つて差し入り乘合平町胡摩澤小谷マツヨ(四四)の左眼を突き差した。

汽車の飛火
好間の火事

好間村大字中好間字川原子木田孝平方山林から二十七日午前十時四十分頃發火し大事に至らんとしたが附近の者がかけつけたので十坪を燒いたのみで鎭火した附近には人家が多いので大騷であつた。發火原因は汽車の飛火

石城郡内に 水産校設立運動
新學期を控へて
地方有志の計劃

石城郡内に水産學校の設立が必要な事は早くから叫ばれ現に四倉町、小名濱町に於ては小學校に水産科を併置して漁獵、海洋、氣象、船舶その他水産に關係ある課目を教授しつゝあるが成績は極めて良好で益々内容を充實にして水産教育の完備を圖る必要があるので小名濱、四倉兩水産補習學校ではそれ〴〵新學期を前に控えて準備をなしてゐる水産教育については曩に小名濱の水産試驗場に講習生を置いて教育をなした事があつた、此の講習生にしろ、小學校にある補習學校生にしろ、卒業しても何等の資格もない處から之が科目を嫌ふ者もあり水産物は本縣の主要物産であり今後改善發達を圖る點も多くあるので石城郡内に縣立の水産學校を設立すべしとの意見が濱通り各町村議有志者間に叫ばれて來たので近く何等かの方法で縣への運動が起きるものと見られてゐる。

態度に注目
鮫川の水電

石城郡鮫川江筋復活問題は鮫川水電と疏水組合との間に五箇年に亘つて係爭してゐるがこれが解決並に同江筋復活と否とは延いて二町十箇村の死活問題であるので關係町村長並に組合側ではこれが折衝に當つてゐたが過般同組合總會の際組合委員管理者との間に交渉した結果三年中に實現させることになりこれに要する工費四十萬圓と定め國庫補助十五萬圓、縣費補助五萬圓會社側から十萬圓、關係町村から十万圓として縣當局並に會社に提出することになつたが關係町村では既に承知したが會社側で果して十萬圓の支出を承認するか否か頗る注目されてゐる。

泥醉して 巡査と喧嘩

平町七丁目土木請負業志賀兵吉養子志賀三郎(二四)は二十八日午後九時頃泥醉して平町南町を徘徊中警邏中の平警察署金子巡査に突き當り喧嘩を吹きかけたので格鬪の上取押へられ平署に檢束された。

三丁目で 聯合賣出し

平町三丁目では來る三十一日から向ふ七日間例年の通り福引景品附大賣出しを催し一等桐タンス以下一本も空籤なく思ひ切つた景品を添へるといふので今から人氣を呼んでゐる。

前期決算
販賣利用組合

石城販賣利用組合總會は既報の如く二十七日平町元石城郡役所に開き協議の結果、剩餘金預け入れ銀行を七十七銀行、平銀行と定め諸積立金は運用出來る事昭和四年度に借入する最高限度は三十萬圓とする事、役員慰勞金は剩餘金の一割以内とし組合長が專決し得る事、中央金庫への加入は從來七口であつたのを十五口とする事等を協議可決した後監事を改選し中田政吉、兒玉萬平、吉田彌十郎三氏當選した。尙ほ同組合前期の利益金は八千二百十四圓十八錢で、之が處分案は準備金に二千五百圓、配當金千三百廿五圓七十錢(年六分)特別積立金四千三百八十八圓四十八錢に決定した。

驚いた!!!
こうまで安いとは
平・加納活版所の印刷物

豊間補習校

武道試合

豊間村水產補習學校では十二月二十五日から毎週土曜日午後七時から午後九時迄武道の練習を行ひ更に十八日から二十四日迄寒稽古を行つたが、之が納會を兼ね試合を行つた結果左の如し
▲五人抜岩下信一▲三人抜鈴木信雄▲最高点者九人抜岩下信一

藝妓文助

女中に化ける

平町字田町藝妓置屋湖月事鈴木千代助方抱へ藝妓伊達郡桑折町生れ文助事館かね(二四)は去る十五日頃無斷家出をなし行衛を晦ましたので置屋から平署に捜索願ひを出し行衛について嚴探中の處同人は飯坂温泉橋本屋旅館に女中として住込んでゐる事が判明したので二十日主人が引取つた。

落盤の下敷

坑夫二名重傷

石城郡小川村福島炭礦坑夫齋藤新次郎(三四)同高橋彦三郎(二四)の兩名が二十八日午前七時頃同坑の第七坑内に於て作業中落盤のため重傷を負ひ生命危篤である。

最後の授業

四倉校 森生

(四)

先生はそれからフランス語について話を初めた。フランス語は世界で一番美しい國語で、私だちはフランス國民に生れた以上、何時までも頭にきざんで忘れてならない。最後に最後に先生は文法書を手にとつて讀み始めたが今日位よくわかつたことはない。何でも皆な先生のやさしいのに驚いた。文法の時間が終つて書方が始まつた、私たちはほんたうに一生けんめいで勉強した、先生の聲とペンの走る音しかきこえない。休み時間もない、學校の屋根ではハトがおとなしくクヽとないてゐる。私は獨り言をいつた。

「はとまで、ドイツ語でなかねばならないだらうか」

私がそつと顔をあげて、先生の顔をみると、先生は一心に室をながめてゐた。多分、教室にあるものは何でも頭におぼえて行かうとしたのだらう

先生は椅子から立ち上つて「皆さん、皆さん、私は……私は……」

先生の胸には何かゞこみ上げてきて、それ以上の言葉がつかなかつた。すると黒板に向つて白墨を手にとつて大きな字でかきなぐりました。

「フランス、バンザイ」

先生は壁によりかゝつて、話することもできない。

「授業は終りました」と手まねぎで私どもに知らせました」

チクノール「鼻の藥」 平五 山野邊藥局

ハガキ集

―(投書歡迎)―

▲映畵とし云へばチヤンバラ物に食傷してる吾々は深刻なる西洋物に飢えてゐる時一脈の光とそしてウルホヒを與へて呉れる西洋物を出す有聲座があるのを多とする。そしてやゝもすると説明者が映畵に蛇足を付する思あるとき一抹の潮を浴びた感と熱のある一華君の説明あるを思ふ。

第十八期營業報告

(昭和三年上半期)

貸借對照表

資產之部

未拂込株金	一一三、五〇〇・〇〇〇
貸附金	二六、七一五・九五〇
假拂金	二、〇〇一・五八〇
什器	八六九・三〇〇
共同購入品	一八、四〇三・二九〇
預金	一、六九九・〇四〇
建物	二六六・〇〇〇
振替口座	一〇〇・〇〇〇
現金	五二七・七五〇
合計	一六三、〇八二・九三〇

負債之部

資本金	一五〇、〇〇〇・〇〇〇
假受金	七四・四八〇
借入金	七、〇〇八・九二〇
未拂配當金	三五二・一四〇
別途積立金	一、九五〇・〇〇〇
法定積立金	二、九五〇・〇〇〇
前期繰越金	一九三・三九〇
當期利益金	六五四・〇〇〇
合計	一六三、〇八二・九三〇

利益金處分案

一金參千四百八拾五圓七拾參錢也 當期利益金
一金貳千八百參拾壹圓七拾參錢也 當期欠損金
差引金六百五拾四圓〇錢也 純利益金
一金壹百九拾參圓參拾九錢也 前期繰越金
合計金八百四拾七圓參拾九錢也
之ヲ處分スルコト左ノ如シ
一金壹百圓也 法定積立金
一金壹百圓也 別途積立金
一金五百八拾貳圓四拾貳錢也 磐城銀行預金欠損
一金六拾四圓九拾七錢也 後期繰越金

右之通相違無之候也

昭和三年十二月廿八日

小名濱水產株式會社

專務取締役 水野政次郎
常務取締役 佐藤作平
取締役 薗田嘉藏
取締役 水野德次郎
支配人 平野直康
監査役 中野鐵之助
監査役 高木保

生產者より需要者へ

―この値段でいかゞ!!!

白米一升二八錢ゟ 醬油一升四八錢ゟ
清酒一升八〇錢ゟ 木炭雜丸正味四貫目
味噌一貫目五八錢ゟ 一俵一圓

安くても品の好いのが當店の强み
例ひ一升、一合でも迅速に届けます

本日開業 マルミヤ廉賣部

平驛通(八幡屋前)

大日本民謠演奏大會

……主なる演奏者……

講演「民謠に就いて」 仙臺ラヂオ放送局民謠研究會長 後藤桃水先生
民謠演奏 放送局幹部 吉木桃園女史
放送局幹部 赤間森水氏
放送局幹部 八木壽水氏
……其他……

◆平地方民謠飛入出演希望者歡迎◆

飛入競演は民謠に限り一人二種……審査の結果優秀者へは呈賞、且つラヂオ放送、蓄音機吹込選手として推薦を致します。

▼特別來演者 福島名物男 熊田三郎氏來演
福島縣下代表的民謠大家 阿部晴月氏
審査 後藤桃水先生

期日 三十日 三十一日 兩日 午後六時より開演 平館
會費 三〇 五〇 主催 河北新報社平支局
……(飛入出演者は河北新報平支局へお申込下さい)

歳暮福引大賣出し

二月一日(舊廿二日)ヨリ五日間 棹尾の大奉仕

◎御仕着と御暮歳の御用は是非三井へ ◎御祝物御仕度品は豐富揃へてあります
◎格安反物大見切物(二三割安より半額) ◎吉凶御引物は特に廉賣奉仕致します
御贈答には三井の商品券を お買上金五圓毎に福引券呈上
ショール新柄一圓五十錢ゟ 足袋特價白キヤラコ十五錢、黑朱子廿五錢、絹天女物二十錢
主婦の友三秀會特選 新柄帶 側陳列 新館二階
▼福引景品(特等 桐ダンス 一等 高貴織 二等 新銘仙 三等 フトン縞 四等 羽織紐 五等 名入手拭 ……空籤なし……)

磐城平 電話三八・七五一番 **三井呉服店**

石版活版印刷
三國屋印刷所
平町鍛冶町 電話五三三番

日掛金貸付仲介開始
但し確實なる連帶借用の方に限る
合資會社 常磐興信所 平町三丁目

靴とカバンは
―福山に限る
平町役場前 福山支店

外科 專門 X光線科
平町南町 上田外科醫院 電話一二九番

鳥 季節御料理 よせなべ類 天丼
仕出しは迅速配達致します
鰻蒲燒 魚榮 平町南町平館隣り 電話四二四番

痔の高級内服藥「ダイサン」錠 平五 山野邊藥局